

新潟県聴覚障害者地震復興支援本部ニュース

NO. 6

平成16年12月27日発行

被災地の聴覚障害者交流会開催

中越大震災発生から丸2カ月目を迎えた12月23日祝日。駒ヶ岳を仰ぎ、佐梨川に魅入る開湯八百年の歴史を誇る越後大湯温泉「村上屋旅館」に長岡・小千谷・十日町地区の被災者60余名を招待し、交流会を開きました。体の芯からほぐしてくれる癒しの湯に浸かり、旅館こころづくしのおもてなしに舌鼓を打ちながらゆっくり語り合いました。東京より手話ができる医師片倉和彦氏と看護師大島三千子氏も同行し、今冬、流行が予想されるインフルエンザに関するクイズ形式の楽しく分かり易い説明会もなされました。片倉医師のお話はユーモア愛嬌たっぷりて笑いの渦に包まれ、皆さんの心も和んだと思います。又、同医師は希望者対象にカウンセリングを実施したのですが、やはり震災による様々な不安、悩みを多く抱えていることが判りました。



久々に再会し、お互いの無事を喜び合い、近況報告、行政上の手続きの情報交換で明るく元気な様子で安心しました。一方、半壊・一部損壊あるいは建て直しの決断における経済的な不安を話されている会員もいらっしゃいました。ひとときあの悪夢を忘れて、本当に心底からほっとされたようでした。予定時間が瞬く間に過ぎ去り、後ろ髪を引かれる思いで、お互い

の一日も早い復興を誓い合いながら帰途につきました。

聴覚障害者地震復興支援本部の主な動き

12月10日 各地の罹災・被災証明基準の一覧表を作成

12月11日 被災支援報告書記入事項を各現地対策本部へ。

遠藤香織様より被災地にクリスマスプレゼント贈呈。

- 12月13日 新潟県手話通訳者など被災地派遣は一旦終了と県障害福祉課より連絡あり。
小千谷市は12月7日終了。8日以降は市奉仕員派遣。十日町市・魚沼市は11日終了。
- 12月15日 本部会議資料など準備作業
- 12月16日 長岡市で聴覚障害者対象の被害認定に関する説明会実施。勝本本部長出席。
- 12月23日 『被災地の聴覚障害者交流会』 越後大湯温泉
- 12月25日 第4回「幹事会会議」 23日の交流会のまとめと第2回交流企画の計画等を協議

小千谷市災害ボランティアからの報告

10月27日～12月19日まで53日間ボランティア活動を行ってきました。市内外2万人超のボランティアが駆けつけ、そのうち聴覚障害者は4人。北海道からも来られた人もいましたし、沖縄から来られた方もいました。そのろう者2名と手話に興味のある健聴者を2名にインタビューしてきました。

インタビューの内容は、①県名、性別、②何日間ボランティアをしましたか。③ボランティアの活動内容 ④最後被害を受けたろう者の方に励ましのメッセージ

《ろう者》 ①愛知県存在で新潟出身、男性 ②3日間 ③ペットボトルの分別作業、ビラ投函宅配作業、室内での移動作業、大根抜き作業 ④年の瀬になり、後わずかとなりましたが、中越地方は豪雪地帯でこれからの生活を大変心配しております。怪我、破壊された家など1日も早く復旧作業を進め、不安な生活が消える様お祈り申し上げます。被害した人達は精神的ショックが大きい筈ですが、大変な頑張りと感じました。被災の人達を励ますつもりが逆に励まされた事も…。だから私達も倍以上頑張っていけないと…と頭が下がる思いでいっぱいでした。立ち上がれ…中越団結…小千谷の皆様を応援をしています。

①愛知県、男性 ②3日間 ③ペットボトルの分別作業、ビラ配り、被害者の家で荷物運び、引越し手伝い ④皆様の一日でも早い復興を心よりお祈りいたします。

《健聴者》 ①福島県、女性 ②19日間 ③土砂撤去、独居生活をしている高齢者宅訪問、仮設住宅への引越し手伝い、‘がんばろっておぢや’の配布、子供たちと遊ぶ、ボランティア受付業務などなど ④どんな状況であっても先のことを考えたら不安に思ってしまうのは誰も同じだと思います。自分のできる範囲からでいいと思います。少しずついいですから徐々にこなしていきましょう。夜明けのこない夜はありません。

① 千葉県 男性 ② 15日間 ③ 運搬、理容師を避難所へ割り当てるボランティア等 ④ より困難な中での被害でしょうが、負けないで頑張ってください。

快く答えてくれた4名のみなさん協力ありがとうございました。

ガンバっています！新潟中越&小千谷そして新潟

徳島県立聾学校小学部児童会の皆さんから

励ましのレターが沢山届きました

新潟県のろう者の方へ

(小学部高学年)

- ・ こんにちは。私達は毎年廃品回収をやっています。そのお金は世界で貧しい人々に寄付をしているけれど、今年はちょうど新潟県で地震が起こって、目の前で様子を見て、大変そうだなあと思いましたので、そのために廃品回収をして、寄付したいと私たちは考えました。一生けん命、お金を集めました。新潟県のろう者の人々が家を直したい所などに使って下さい。もう、冬がやって来たので、かぜをひかないように体には気をつけて下さい。応援しています。がんばって下さい。
- ・ ぼくたちが、文化祭、廃品回収で一生けん命がんばった気持ちが入っているお金です。少ないですが、使ってください。がんばって町の復興して下さい。

(小学部中学年)

- ・ はじめましてぼくは徳島県立ろう学校四年生です。にいがたは、もう雪がふって寒そうですね。ぼくたちは廃品回収やバザーで集めたお金を送ります。どうか元気を出して下さい。徳島で応援します。
- ・ じしんがおこったので私は心配しています。ろう学校にバザーやはいひんかいしゅうでためてきたお金はみなさんにあげます。生活に使ってください。
- ・ 新しい家をたててパーティをしてね。がんばってください。
- ・ 毎日ニュースをみています。わたしはとてもしんぱいです。早く家がなおつたらいいのにね。

(小学部低学年)

- ・ おうちはだいじょうぶですか。はいひんかいしゅうでごみをいっぱいあつめました。リサイクルができるようにがんばりました。こうかんにおかねをもらいました。にいがたけんの人でつかってください。
- ・ じしん、こわかったね。げんきですか？ ゆきいっぱいですか？ かぜをひかないようにきをつけてください。

《お詫び》 まだまだ多数ありますが、紙面の都合により割愛させていただきます。
児童の皆様からのメッセージ大変うれしく思います。

聴障・医ネットのご案内

「聴障・医ネット」とは、「聴覚障害者の医療に関心をもつ医療関係者のネットワーク」の略称で、聴覚障害者の医療問題を考える医療関係者たちの全国的なネットワーク組織です。阪神淡路大震災時に、被災された聴覚障害者に対しての医療支援が効率的に行えなかったことがきっかけになり、様々な情報交換と災害時の医療支援を目的に設立されました。

心のケア

・・・「こころの散歩道」より・・・

《災害直後の心と体の状態》

疲れが取れない・肩がこる・目が痛い・鼻が詰まる・腰痛・頭が重い。

眠れない・夜中に目がさめる・悪夢を見る・強い緊張感・恐怖感・不安感。

やる気が出ない・小さな振動や物音に驚く・ぼんやりしてしまう・物忘れ・涙もろくなる・だれからも助けてもらえないと感じる・一人になるのが怖い。

イライラする・怒りっぽくなる。

人により、様々な症状がでます。どんな人でも、大きな災害を体験すれば、このような症状がでてきます。地震を体験し、大きな被害を受けた人の話を聞く中で、戸のがたがたという音に驚いたり、涙もろくなったりしています。

一時的にこのようになるのは、自然なことです。だから、自分がおかしくなったのかなど、必要以上に悩んだり、自分を責める必要はありません。また、周囲の人がいつもと違うような態度を示しても、責めてはいけません。むしろ、支えあいましょう。

(このような症状が、その後も長く続いてしまう場合、PTSD(心的外傷後ストレス障害)といえます。)

《話す、聴く、共感し、共有する》

私たちは、人にはなすことでストレスを発散し、心が癒されていきます。一人だけで、感情を押し殺すよりも、気持ちを受け止めてくれる人に向かって、話をしましょう。感情を出しましょう。

誰かが話してきたら、一生懸命耳を傾けて聴きましょう。同じ恐ろしい体験をしたもの同士だからこそ、気持ちを共有できるでしょう。

家族、親戚、近所の人が、身近な人の心を理解し、寄り添っていくことがとても大切です。

参考資料：新潟青陵大学心理学博士HPより

財団法人全日本ろうあ連盟、全国手話通訳問題研究会、日本手話通訳士協会の 三団体が全国へ義援金の協力を呼びかけ！

新潟県聴覚障害者復興支援対策本部では、協会機関紙「ろうあ新潟」を通して義援金の協力をお願いしてきました。12月25日現在 706,157円寄せられております。

一方、財団法人全日本ろうあ連盟、全国手話通訳問題研究会、日本手話通訳士協会も合同で、「台風23号」「新潟中越地震」により被災された聴覚障害者や手話通訳者への義援金をお願いするチラシを作成し、全国へ呼びかけを行っています。

多くの皆様のご協力をお願いいたします。

〆切日はどちらも1月31日です。

雪に越される・・・

◇◇日報抄◇◇

「雪に越される」という言葉がある。家や田畑の冬支度が終わらないうちに突然雪が来て、すべての手順に狂いが生じる◆「例年一冬に五回も六回も雪下ろしをしなければならない。家がつぶれないか心配です」「家は風が吹いただけでも揺れる。雪が降ったらどうなるんだろう」。地震発生以来、雪による二次災害への焦りが痛切に響く◆暖冬とはいえ、被災地はもうすぐ「日本で最も重い」といわれる雪に覆われる。水分を多く含んだ北陸特有のべた雪のことを、児童文学者の杉みきさんは随筆「雪おろし」の中で「高さ1メートルの屋根雪は、たとえていえば一枚の畳の上にお相撲さんが四人ほど立っている勘定である。即座に底の抜けないのがふしぎみたいなものだ」と書いている◆家を倒壊から守るにはこまめな雪下ろしが欠かせない。だが、避難の指示や勧告が出ている地域ではそれも難しい。応急修理をしても地震で抵抗力が落ちている◆全村民が長岡市に避難している山古志村では、百人を超える「雪下ろし隊」を結成するという。雪崩の危険は伴うが、春までは総力戦で臨む構えだ。県も被災地のお年寄り世帯を中心に支援する、雪ほりボランティアの募集を始めている◆杉さんは随筆でこう語る。「なにも、雪が降るなどはいわない。せめて、雪おろしをしないでいい程度に、降ったり消えたりしてくれればねえ」。

(新潟日報 12月21日朝刊より)

※ 被災地は全国有数の豪雪地帯です。

22日より雪が降り始め、寒さも一段と厳しくなったこの頃です。今、一番不安なのは、やはり大雪が積もった時です。雪の重みで家が潰れたりしないか・・・？と不安でなりません。もし大雪が積もって困った時は遠慮せずに本部までご相談下さい。

2005年も元気出していこー！新潟

- 年末年始は12月29日から翌年1月3日まで休みになります。
- 復興支援本部のニュースは随時発行です。

新潟県聴覚障害者復興支援本部

電話 025-381-1956

FAX 025-381-4699

E-mail niigata-roukyou@helen.ocn.ne.jp